

(様式1)

令和5年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 102	提案機関名 神奈川県 森林再生課
<b>要望問題名</b> 花粉症対策品種としての特性を有する本県独自のエリートツリー <sup>※</sup> の選抜について	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 本県では、平成30年に「神奈川県花粉発生源対策10か年計画」を策定し、混交林化や植え替えの対策を行っているが、スギ・ヒノキの植え替えにあたっては、花粉症対策品種を植栽することとしている。 一方国では、「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、CO <sub>2</sub> 吸収と固定の最大化を期するため、林業分野において、エリートツリー等の成長の優れた苗木の活用を推進しており、農林水産省が策定した「みどりの食料システム戦略」においては、活用される林業用苗木のうち、2030年までに3割、2050年までに9割以上をエリートツリー等にすることを目標としている。 現在、花粉症対策品種の基準を満たすエリートツリーは選抜されていないことから、本県ではエリートツリーの活用を見送ってきたが、伐期を迎える人工林が増加する一方、森林整備に要する費用の大半を造林初期費用が占めている現状の中で、将来的に森林所有者等の植え替えに対する意欲の低下が懸念される。 エリートツリーは、従来の苗木に比べ初期成長に優れることから、下刈り回数の削減や伐期の短縮等が期待されており、造林コストの低減により森林所有者等の施業意欲が向上し、植え替えの促進に寄与すると推察される。 以上のことから、本県においてもエリートツリーの活用を推進していくため、花粉症対策品種としての特性を持った本県独自のエリートツリーを選抜する試験研究を要望する。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業技術センター   ②畜産技術センター   ③水産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
<b>備考</b> ※「エリートツリー」は本来、林木育種センターが独自に優良木の選抜をしたものであり、都道府県が申請することはできません。（特定母樹は都道府県も申請可能。） ただし、「みどりの食料システム戦略」で「初期成長の良い苗木」という意味で特定母樹を含めて「エリートツリー」という言葉を使用しているため（おそらく“エリートツリー”という聞こえよいかからであるとも推察します。）、この要望においても「成長の良い選抜品種」という意味で「エリートツリー」という言葉を用いようと考えています。ただし、本来の定義のエリートツリーとは異なることから、混同を防ぐため「本県独自の」という語を加えました。	

回答機関名	自然環境保全センター	担当部所	研究連携課
対応区分	<input checked="" type="checkbox"/> ①実施   ②実施中   ③継続検討   ④実施済   ⑤調査指導対応   ⑥現地対応   ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合) エリートツリーの研究開発		
<b>対応の内容等</b>	エリートツリーは、第2世代精英樹から選抜された、成長に優れた優良木で、そこから林野庁で特定母樹が選抜され普及がなされています。しかし神奈川県では「神奈川県花粉発生源対策10か年計画」で花粉症対策品種を植栽することとしており、すでに全量花粉症対策品種となっております。県では花粉症対策品種となる特定母樹が選抜されれば普及することとしていますが、現在までに花粉症対策品種の基準を満たす特定母樹は選抜されていません。一方神奈川県で普及している無花粉スギは、精英樹F1同士の交配による無花粉スギで第2世代精英樹と同等に相当成長が早く、特定母樹の基準を満たす無花粉スギが選抜できる可能性があります。ただし試験地設定で比較品種等がないため林野庁で認められるかは不透明であるため、その場合県独自のエリートツリーとして森林吸収源対策に資する品種として、検討を進めてまいります。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内      ②2～3年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ③4～5年以内      ④5～10年以内		
<b>備考</b>			